

全日本民主医療機関連合会 歯科部 発行日： 2026 年 6 月 24 日 発行人：榊原啓太

2026 年歯科衛生士全国交流集会 開催しました！



5 月 30 日(土)～31 日(日)北海道札幌市で 2026 年歯科衛生士全国交流集会を開催し、23 県連 62 事業所 82 名が参加しました。集会は、①『民医連歯科衛生士の基本となるもの』の活用実践や困りごとを交流し、活用を推進すること、「ケアの倫理」から職場づくりを学び、歯科衛生士の確保と育成につなげることを目的に、『基本となるもの』アンケート報告、『基本となるもの』シンポジウム、夕食交流会、学習講演「民医連歯科衛生士とケアの倫理」、SGD、今後の提起などを行いました。

■『基本となるもの』シンポジウム①学習・研修

『基本となるもの』を普及・活用するために、学ぶことから始めることが提起されています。事業所では所長・事務長を先頭に多職種と連携し、患者の支援やめざす医療と結びつけて学習すること、県連・地協では近畿・東海・北陸地協の研修が紹介され、患者の生活状況を理解する医療面接の大切さが共有されました。歯科衛生士の役割や専門性を伝えることが多職種連携につながることを、伝える難しさやポイント、地域へ広げるとりくみを交流しました。



■『基本となるもの』シンポジウム②実践・活用

アセスメントシートの活用では、シートを埋めることが目的ではなく、患者を理解し、多職種で情報共有するためのツールであることが再確認されました。記入実習や事例・症例報告を通じた職員育成や、実習生や奨学生へ『基本となるもの』を活用して民医連歯科衛生士のめざすものを伝えるとりくみが共有されました。



■学習講演「民医連歯科衛生士とケアの倫理」

「ケアの倫理」は「人は一人では生きられず、常にだれかと依存しあって生きている」という事実を肯定した考え方であり、「ケア」はニーズを受け止め、応答することです。歯科衛生士の日常業務においても患者をよく知り、背景やニーズを理解することからケアがはじまります。それは職場づくりにおいても共通しており、医療現場では多職種が協力して患者を支え、お互いの役割を認め合い、支え合う関係を築くことで質の高い医療につながります今後もケアの倫理の視点を大切にしながら、患者一人ひとりに寄り添った実践を積み重ねていくことを進めましょう。

■感想アンケートより

★アセスメントシートや『基本となるもの』の理解が深まった。全国の取り組みや悩みを共有出来て、大きな刺激になった。

★自分だけの課題と思っていたことが、共通の悩みだとわかり、安心感につながった。集会で得た悩みを職場へ持ち帰り、今後の実践に活かしていきたい。

仲間とともに『民医連歯科衛生士の基本となるもの』を手に
新たな一歩を踏み出していきましょう

第 46 期歯科衛生士委員
歯科部員

ニュース担当：全日本民医連歯科部副部長 小玉奈緒美